



私の好きな女流作曲家の紹介

●ルーツィヤ・ガルータ（1902－1977）

ソビエト社会主義共和国ラトビア（リガ生まれ）[\[1\]](#)はのピアニスト、詩人、女性作曲家。

作曲をラトビアではヤーセプス・ヴィートリス、パリではポール・デュカスなどに師事[\[2\]](#)して学んだ。協奏曲を演奏するなどピアニストとして活躍したが、後に病気により演奏家としてのキャリアを終え、作曲に転じた。

（ウィキペディアより）



曲目 ピアノ協奏曲

ピアノ Reinis Zarins

35 : 58

●ソフィア・グッバイドーリナ（1931－）

ソ連邦のタタール自治共和国（現在のロシア連邦タタールスタン共和国）出身の現代音楽の作曲家。タタール自治共和国のチーストポリに、タタール系の父親とロシア系の母親の間に生まれる。野原に出ては作曲家になりたいと祈るかたわら、アイコンに惹かれるような少女であったという。1946年から1949年までカザン音楽ギムナジウムでピアノと作曲を学び、1949年から1954年までカザン音楽院で作曲を学ぶ。ソビエト・ロシアで修学中に、新しい音律を探究したために「いい加減な音楽」との烙印を押されたが、ショスタコーヴィチの支持を得た。ショスタコーヴィチはグッバイドーリナの卒業試験で、これからも「誤った道」に取り組みつづけるように激励したという。

（ウィキペディア）より

曲目： ヴィオラ協奏曲 ヴィオラ ユーリ・バシュメット

指揮ゲルギエフ サンクト・ペテルブルグ・キーロフ歌劇場管弦

楽団

※ヒルデガルト・フォン・ビンゲン（1098－1197）をご存知ですか？

古代ローマ時代以降最初の女性作曲家と言われる。

